

ルポルターージュの威力

明石 昇二郎

(集英社『青春と読書』2010年5月号掲載)

本の目次からあとがきまで一冊丸ごとデジタルスキャンすることで、ユーザーの興味にあった本をインターネット検索で見つけ出すことができるサービス——。これが、すでにネット上で稼働中のグーグル社「ブック検索」(現在は「グーグルブックス」と改称)です。

エンドユーザーは、その検索結果を見て、販売している書店や、どこの図書館が所蔵しているのかをタダで知ることができます。立ち読み感覚で一部を「試し読み」できる本もあります。すでにグーグル社では、英語ばかりか日本語、ドイツ語、フランス語まで含む多種多様な言語の書籍を一〇〇〇万冊以上、デジタルスキャンし終わっているそうです。

が、あるうことかグーグル社は、著者や出版社の許可を一切得ないまま、勝手に本のデジタルスキャンを繰り返して、その一部をネット上に無断で公開していたのです。さらにグーグル社は、この行為を咎める裁判が米国で起こされたのを逆手に取り、わずかな解決金を支払うことで本のスキャンデータをネットで販売しても構わないとする「和解案」を、世界中にいる本の著者たちに一方的に突きつけてきました。これを、「グーグルブック検索和解」事件と言います。

グーグル社では、米国の大学図書館にある「蔵書」を片っ端からデジタルスキャンしていました。その中には、現在も書店で販売中のものも多数含まれています。そして私が書いた本もまた、彼らにデジタルスキャンされたうえ、一部をネット上で公開されていたのです。

本書『グーグルに異議あり!』(集英社新書)は、その事実を知った私が、突如降りかかってきた「災厄」にどう立ち向かっていったのか——を報告したルポルターージュ(現地報告)です。原稿の大半は『週刊プレイボーイ』誌上でほぼ半年にわたり、事件の進行と同時進行で不定期連載した「グーグルの『正体』を暴く!」を通じて発表したものです。

他人の著作権を確信的に侵害し、我が物

にしようとしたグーグル社の挑発に対し、日本の出版社や新聞社は有効な反撃を何もできずに喘いでいました。中には、早々とグーグルの「軍門に降る」決断をする会社もあったほどです。

そんな中、グーグル社に対し、毅然として真つ向勝負を挑み、徹底抗戦したのが『週刊プレイボーイ』誌でした。実際、旗幟を鮮明にして闘った日本のマスメディアは、ここにおいて他にありません。本書は「知的スポーツ」としてもお楽しみいただけるものと自負しています。

「グーグルブック検索和解」事件の本質は、インターネットとデジタル技術を悪用し、著作権条約などを身勝手に解釈しながら、世界中の著作権を牛耳ろうとグーグル社が企んだ「海賊版事件」に他なりませんでした。

そんな「対グーグル戦争」取材を通じて、改めて思い知らされたことがあります。大問題が発生し、どう対処すればいいのかまったくわからない時、問題解決のための緒や突破口を探り当てるのに、**ルポルターージュ(ルポ)は凄まじいばかりの威力を発揮する**——という事実です。不景気の昨今、暗い話題ばかり多くて嫌になることも多いのですが、そんな時代だからこそ、ルポとそれを書くルポライターがますます必要とされているのだ、とさえ思いました。解決策はすべて「事実の中にある」と断言したいくらいです。

となれば、本書の次に執筆すべきなのは『ルポルターージュのススメ』みたいな本なのかもしれません。

ルポは、個人の責任の下、個人の目線で報道する「最小単位のジャーナリズム」です。したがって、ルポを発表する媒体(マスメディア)も、雑誌、テレビ、単行本と千差万別です。テレビでのルポ以外、チームプレイや特別なインフラは必ずしも必要ではありません。

一方でルポは、皆さんにとっても大変身近なものでもあります。自覚のないままブログやツイッターで「ルポ」を書いている人もき

つと多いことでしょう。「小学生時代の夏休みの絵日記」や「修学旅行の体験記」や「ラーメン店での実食体験記」も、ウソでなければ皆「ルポ」の範疇に入ります。ルポという言葉には「現地報告」以上の意味はありません。『週刊少年ジャンプ』で連載された人気マンガ「ジョジョの奇妙な冒険」の中に登場する有名なセリフに、

「い…いや…体験したというよりはまったく理解を超えていたのだが……あ…ありのまま今起こった事を話すぜ！」

というものがあります。これぞルポの「イロハのイ」であり、真髄です。グーグル騒動に巻き込まれ、『週刊プレイボーイ』で連載を始めた当初の私の心境は、まさにこれでした。ルポのイロハを知れば、情報を自ら発信することの楽しさをより実感できることでしょう。しかも、他人が発信する情報の実偽を見極める目まで養われます。「ルポのイロハ」が広く知れわたることは、結果的にネット・リテラシーの向上にもつながるかもしれません。一人でも多くの日本人が「ルポ」を書けるようになる――。これこそが、日本に山積する問題を解決していく唯一の処方箋であるような気さえしている、今日この頃です。

配信元…ルポルタージュ研究所

Copyright (C) 明石昇一郎

URL : <http://www.rupoken.jp/>